

宇久中学校だより

令和6年12月3日 No.13



学校教育目標「ふるさを愛し 主体的に学習し
自らの判断で正しく行動できる生徒の育成」
生徒会スローガン「瞬可集到」～Be yourself～
学校テーマ「凡事徹底」

佐世保市立宇久中学校
校長 江頭 正次郎
☎ 0959-57-2007

海原



第2回学校運営協議会を開催しました



11月25日(月)に本年度の第2回学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を本校図書室で開催しました。当日は、関係地区の代表の方々、宇久小中の保護者、教職員が「こんな宇久っ子に育てほしいpart2」～学校・家庭・地域にできること～をテーマに話し合いました。まず、本年度の柱である「地域でのあいさつ運動」の取組の現状確認では、以前に比べ小中学生のあいさつがよくなったという意見をいただきました。また、新たな取組では、地域での活発なあいさつ運動の啓発とあいさつができていないかの振り返りなどが必要であると貴重なご意見をいただきました。今後も宇久島の子どもの健全育成と地域域活性化のために活動を推進してきたいと思っております。ご参加いただいた地域、保護者の皆様ありがとうございました。

人権を考える映画「青い鳥」を鑑賞しました

11月22日(金)に人権週間の一環として、直木賞受賞作家 重松 清 作の「青い鳥」の映画を鑑賞しました。これは、佐世保市教育委員会が人権学習の教材として指定し、市内各中学校に巡回して上映している映画になります。

内容は、俳優の阿部 寛さん演じる吃音の教師村内先生が東ヶ丘中学校へ臨時教師として赴任し、解決されているはずの以前学級で起こったいじめ問題がまだ完全に終わっていないことに対し、いじめた側の生徒の心にふれる物語です。本校、生徒も身近な内容として捉え、真剣な表情で鑑賞しました。学校生活における相手への思いやりや相手を認めることの大切さがわかった映画鑑賞となりました。



舞台芸術等総合支援事業「能楽」鑑賞をしました



11月27日(水)に「令和6年度舞台芸術等総合支援事業〈学校巡回公演〉」として公益財団法人「梅若会」による「能楽」公演が本校体育館で開催されました。これは、小中学生に質の高い文化芸術を鑑賞させる機会を確保し、豊かな創造力・思考力コミュニケーション能力を育成させることを目的として文化庁が主催しています。

当日は、早朝から大道具の方がお見えになり、本校体育館を立派な能楽舞台へと作り変え準備をされました。その後、総勢20名を超える演者の方々のリハーサルがあり、本番となりました。ほとんど生徒は、プロの能楽を鑑賞するのは初めてとあって舞台装飾や衣装に驚いていました。宇久小の5・6年生も加わり最初にワークショップとして能楽の歴史、基本動作、鑑賞の仕方などの説明がありました。



午後からは、宇久高校生も参加し楽器演奏体験後、いよいよ公演が始まりました。演目は狂言「柿山伏」、能「殺生石」でした。どちらも昔の言葉を使い難しいところがありましたが、十分楽しんで鑑賞することができました。わずか1時間の公演でしたが、プロの演技は、生徒の心に鮮明に残り、感動を与えました。